

※これは台本です!※

ストーリーに関して、1ページ目から
ド級のネタバレが含まれます!

本編視聴後にお読みいただくことを
強く推奨いたします!

言ったからね!

ストーリー楽しめなくなるかもだけどいいのね!

ネタバレまみれだからねこの台本!

知らないよ!

どうなってもお母さん知らないからね!

つぎのページから台本だよ。

1 【作品タイトル（仮題）】

2 【一周年記念100円（予定）】

3 無知ダウナーロリママ神様の未熟ぶにまんてオホイキお射精冒険譚！

4 くだらの村人が帝国騎士団長に成り上がった話く

6 【ヒロイン】

7 「黒字」 ミミナメル・ネーレル」 CV:藤村莉央様

8 一人称…… 私

9 設定 …… エルフの少女。丁寧な敬語口調で話す

10 少し尊大なところもあるが、その優しい性格から友も多かった。

11 昔は姉と妹がいた。面倒見の良さは、妹の世話をし続けてきた賜物。

13 「赤字」 アル・ルゼインハート」 CV:御子柴泉様

14 一人称…… 私

15 設定 …… 主人公が騎士団に入団したのち、後輩として入団した女騎士

16 主人公の優しい性格に惹かれ、慕うように。

17 数年後には、剣術の苦手な主人公の右腕的存在となった。

19 「紫字」 モモナ」 CV:暁鞠子様

20 一人称…… モモナ

21 設定 …… エルフと人間の混血種であるハーフエルフのようだ。

23 【主人公】

24 ミキロス村の子供。騎士団長に命を救われたことから、自身も騎士団長を志す。

1 【前日譚】

2 とあるエルフ一族は、種族の枠を超えた平和を目指すため、人間が暮らす近隣の村、ミ
3 キロスコ村へと対話を目的に訪れた。

4 しかし、突如現れた害獣エルフに村民は恐れ、武器を手にエルフへと襲いかかった。

5 エルフ達は身を守るため応戦するほかなく、平和な村は一夜にして戦場と化した。

6 偶然近くにいた帝国騎士団長率いるチームが村の救助に向かうも、すでに村はほぼ全滅
7 状態。唯一、怯え隠れていた少年を逃してやったが、他に村民の生き残りはいなかった。

8 騎士団はその後戦を続け、その場にいたエルフ一族をほぼ全滅まで追いやった。

9 ただ一匹逃げ延びた、幼いエルフ——ミミナを除いて。

10

11 【前日譚】

12 「トラック1 プロローグ…未来が始まるいつかの話」

13 少年は、神様と出会いました。

14 「トラック2 エロパート 水浴び覗きと耳舐め手コキ」

15 水浴びをこっそり覗いてはいけません。

16 「トラック3 君の夢と私の夢」

17 2人には夢がありました。

18 「トラック4 はじめての恋とはじめてのセックス」

19 どうやらキスでは赤ちゃんはできないようです。

20 「トラック5 朝日と、」

21 お別れ、ですね。

22 「トラック6 エピローグ…いつか夢見た未来の話」

23 どうか、騎士団長様の未来に、そして世界に、希望と光が満ち溢れんことを――

24

25

1 トラックー プロローグ…全てが始まる今日の話

2

3 ■場所ーミギロスコ村から少し離れた森の奥

4

5 SE：森

6 SE：主人公が逃走の果てに疲れて倒れる

7

8 //右斜め前・遠

9 1行目は警戒しながらおずおずと

10 2行目で、自らを襲った人間であると気付き、

11 自分も一族と同様に殺されるのかと息を呑む

12 誰か、いるんですか…？

13 ——ッ！

14 っ、この匂い——まさか、人間——!?

15

16 SE：近付いてくる

17 SE：最後にしゃがみ込むと良いかも

18

1 //1〜2行目で「右斜め前・遠↓正面・中へ」

2 襲ってくる気配がないので、不信に思い近付く

3 っ——ん…？

4 っ、へ——ち、ちょ、大丈夫ですか!?

5 なんでこんな所で倒れて——

6 ——ッ！こ、こんなに弱りきって、一体何が——！

7

8 SE: 立ち上がる

9

10 ち、ちょっと待っててください

11 何か食べるものを持ってきます！

12

13 SE: 走って遠ざかる フェードアウト

14 SE: 走って近付いてくる フェードイン

15

16 //1〜2行目で「右斜め前・遠↓正面・中」へ近付く

17 はっ、はっ、はっ、はぁ、はぁ…

18 ま、まだ生きてますか!?

1

／間に合ったことにひとまず安堵して

2

よ、よかった、息はある…

3

小川の水、汲んできました

4

飲めますか？

5

6

SE: 水を飲まされる

7

8

ん——っ…ふう、よかった…

9

それから——はい

10

これ、ココナートの実です

11

柔らかいから咀嚼もいりません

12

13

いいですか

14

私の住処がすぐ近くにありますが

15

栄養を取れば、そこまで歩けるようにはなるはずで

16

——だから、こんな所で死んではダメです

17

18

1 SE：森 フェードアウト ↓ フェードイン

2

3 ■場所ー ミミナの仮の住处

4

5 //正面・中 指示があるまで位置固定

6 少し元気そうになった主人公を見て□調も軽めに

7 だいぶ良くなったみたいですね、良かったです

8 しかし驚きました

9 あんな所で人間が倒れてるなんて思いもしなかったので

10

11 えっと——男の子、ですよ

12

13 //この2行で、ダウンーながらも少し母性が出ると良いです

14 ふふふ、はい、いい返事です

15 きっと立派な好青年に育ちますよ

16

17 //□調戻して

18 ん？ そんなにキョロキョロして——

1 この住処が、そんなに不思議ですか

2 ま、まあ確かに、ただの木々の隙間ですし

3 住処というには、ちょっと…アシですが――

4 そ、そんなことはいいでしょう、今は

5

6 …で、どうしてあんな所で倒れてたんですか？

7 こんな深い森、

8 人間が寄りつくような場所ではないはずですが

9

10 //主人公の言葉を復唱

11 逃げてた…？

12

13 村が害獣に襲われて

14 数日間一心不乱に走って、気付いたらここに…？

15

16 //数日前に自らの一族が訪れた村の生き残りであると気付き、

17 息を呑み、声を震わせて

18 ―ッ！

1 つ…そう、ですか…

2 それで、三日三晩飲まず食わずで、最後には倒れた、と…

3 …そう――

4

5 //自分がまさにそのエルフであるところの子に伝えたら、

6 怯えて逃げ出され対話のチャンス逃すと考え、神様と嘯く

7 …ん、私、ですか？

8 私は――

9 …そうですね、私は――ん…か、カミサマ、です

10

11 な、何ですか、その顔

12 まさか疑ってるんですか

13 虫の息だった君を助けてあげたんです

14 これは間違いなく神様でしょう

15

16 はい？ 神なんて、いない…？

17 む、人間のくせに無神教だなんて

18 君、いつか天罰が下りますよ

1

／独り言気味にぐちぐち

2

3 エルフは自然を好む一族であるため、

3

4 内心では人間社会の工業化をあまり快く思っていない

4

5 大体人間は、帝都に無駄に大きい城を勝手に建てますし

5

6 争いのための鎧ばかり生産しますし…

6

7 そんなに工業化を進めてどうするつもりなんですか

7

8 もっと自然と共存して

8

9 平和に暮らすという考えはないんですか、まったく

9

10

11 —ん、あ…ああ

11

12 これは君には関係ないことでしたね、すみません

12

13 私の身勝手な愚痴です、忘れてください

13

14

15 さて、自己紹介が遅れました

15

16 私はミニナ

16

17 ミニナ＝メル・ネーレルです

17

18 気軽に、かわいいミニナちゃんと呼んでください

18

1

2 //少しコメディティストに

3 —む、違います

4 ミミナさんではなく、かわいいミミちゃんです

5 む、だから、ミミさんではなく…

6 …ま、まあ、今はそれで許してあげましょう

7 はい、ミミさんでいいです

8

9 好きな食べ者はオチゴの実、好きな色は緑です

10 頭脳明晰、運動神経抜群、とっても優しいお姉さんですよ

11

12 //少し声のトーンを落として

13 ああ、それから—

14 —君と同じで、家族は、もういません

15 よろしくお願いします

16

17 //ダウンナーさは崩さないながらも、強い意志を感じる話し方で

18 —俯いてはダメです

1 男の子でしょう

2

3 それに——君も私も、まだ、生きてるじゃないですか

4

5 //優しい声色で笑いかける

6 だから——ふふ、こうして出会えたんですよ、きっと

7

8 だから、顔を上げてください

9 ——そう、前を向くんです

10 さあ、大きく息を吸って——

11 吐いて——

12 …もう一回私の目を見てください

13

14 //可愛らしく小さく笑って 母性を見せる

15 ——ふふっ

16 ちょっとはいいい顔になりました

17 あとは、その泣き虫を治さなきゃですね

18 まあ、まだ小さい子供みたいですから

1 このくらいで許してあげます

2

3 //「///さんも小さい子供じゃん、と言われて

4 …はい？

5 確かに、私もまだ子供ですが――

6 それでも、君よりはずっと年上、大先輩です

7 もっと敬意を払って接してください

8 う…し、身長の話はやめなさい、私は先輩です、怒りますよ

9 お、おっぱいもですっ！ おっぱいっ、見るのダメですっ！

10 君、可愛い顔して、え、えっちなんですね…っ

11

12 //巨乳に憧れている いじけて

13 うう…いいですよ…大器晩成なだけですから…きつと…

14

15 //気を取り直して

16 と、とにかく、今日のところはここですっかり休んでください

17 はい

18 これからのことなんて、明日ゆっくり考えればいいんです

1 今英気を養うことに集中すべきですよ

2

3 //外見をいじられたことを少し根に持っている感じで

4 この、大先輩の私の温情に甘えて、です

5 わかりましたか

6

7 //冒頭で「正面・近」へ移動 吐息多め有声囁き 母性なでなで

8 ふふふ、いい子ですね

9 よし、よし

10

11

トラックー 終

12

1 トラック2 水浴び覗きと無知授乳手コキ

2

3 ■場所ー仮の住処近くの小道

4

5 SE: 森

6

7 //正面・中

8

主人公に道を案内してちよつと先輩面

9

1行目は左を向いて、2行目は右を向いて

10

(小川と泉の方を見るイメージです)

11

あっちの小川の水は、冷たくて、飲むのにぴったりですよ

12

で、あっちの泉は水浴びにちょうどいい温度なんです

13

14 道に迷ったら、この大きな木を目印にして

15

右が飲み水、左が水浴びと覚えておけばOKです

16

住処からも近いですし

17

どっちも道なり、迷うような道でもないはずですよ

18

わかりましたか

1

はい、いい返事ですよ

2

では、どっちから見に行きましょうか

3

ふふ、そうですね

さっき朝ご飯を食べたばかりですし

今度はさっぱりしたいですよ

では、泉はこっちです

4

SE：足音2人分←

5

//左斜め前・中 指示があるまで位置固定

ふふふ、もうすっかり元気そうですね

やはり子供は元気が一番です

6

//冗談めかして

はい、昨日見かけた時は

それはそれは弱りきっていて

1 土に埋めることを考えたくらいでしたよ

2

3 //少し声を落とし、申し訳なさを滲ませて

4

…とはいえ、元気になってもらったところ悪いんですが

5

ここもいつまでも長居できるわけじゃないんです

6

7

はい

8

ここはあくまで仮の住処で、食料も限られていますから

9

もう少ししたら移動しようと思っていたんです

10

…ま、行く当てなんてないんですが

11

12

ふふ、家族を失った故郷に戻るのも

13

少し——抵抗がありますし

14

15

…はい

16

私が家族を失ったのも

17

君と同じで、ほんの数日前なんですよ

18

それも、君と同じで、一夜にして全員——

1
2 …奇遇ですね、そっくりです、私達

3
4 //「なんで僕が一夜で家族を失ったって知ってるの？」

5 的なことを聞かれて

6 —はい？

7 なんて知ってるの、って—

8
9 ああ—そういうこと—

10
11 ……

12 君の村が一夜で滅ぼされたことなんて

13 私にはお見通しですよ

14 当然でしょう

15 私は、カミサマ、ですから

16
17 //声デフォルトに戻して

18 —で、君はこれからどうするつもりなんですか

1 私は、せっかくなので君に付いていこうかな、と

2

3 …む、何をうじうじしているんですか

4

悩んでることがあるなら言ってください

5

この、大先輩の、かわいいミミちゃんに

6

7 —え？

8 帝都——？

9 —というと、帝都ラインセニアのことですか？

10

んー…ここからだ、少し大変ですね…

11

距離もそれなりにありますし

12

途中で魔物のいる道も通ることになります

13

少し骨が折れそうですが——

14

ふふ、二人いれば、なんとかあります

15

16 SE: 呼吸↑

17

18 //冒頭で「正面・近」へ移動して 吐息多め有声囁き

1 —む、何ですか、その顔は

2 君が行きたいって言ったんじゃないですか

3 自分から言い出しておいて怖気付くなんて

4 男らしさが足りませんよ

5

6 //涙ぐんだ主人公を見てちよっただけ罪悪感

7 ↓慰めるように、母性ある感じでなでなで

8 吐息多め有声囁き

9 む、んう…

10 …大丈夫です、怖くないですよ、よし、よし

11

12 //一行目で「右斜め・中」へ移動 囁きストップ

13 また歩き出す

14 ん——っ

15 さ、泉はもう少しですよ

16

17 SE：呟和 ↓

18

1 //主人公に色々聞くも、全部NOで返ってくる

2 ちなみに、冒険の経験は？

3 ん…ふ、ふむ、なるほど…

4 では、武器——とまで行かなくても

5 農具とか、せめて振り回せる棒みたいなもの——

6 ——は、どう見ても持っていないですね

7 では、武術や、戦闘術の心得はどうですか

8 ……

9

10 //ジト目気味に

11 …あの、そんなんでどうして帝都なんか目指してるんですか

12 あそこは大都市です

13 宿代も高いですし、子供にできる仕事なんてそうそうないですよ

14

15 君が気安く立ち入っても

16

一泊もできずに、帝都を囲む外壁の前で

17

野宿することになると思いますが——

18

1 // 泉に到着

2 ———と、理由は後でまた聞くことにします

4 SE: 足音←

6 // 冒頭で「正面・中」へ移動して ちよっと得意げに

7 はい、到着しました

8 ここが泉です

10 ふふふ、結構大きいでしょう

11 君が大人になっても余裕の広さです

12 それに、見た目より深くないので

13 子供の君でも安心して入れます

14 更に、ちょうどよくそこに岩場があるので

15 脱いだ衣服も汚さずに置いておける、完璧な場所なんですよ

17 // 誇らしげに、無い胸を張る

18 ふふ、嬉しいですか、そうですか

1 私が見つけたのですよ、ふむん

2

3 //「……ちゃんすごい、」と言われて

4 ふふふ、そうでしょう、そうでしょう

5 もっと褒めてもいいんですよ

6 この、かわいい……ちゃん先輩のことを

7

8 //褒められて気持ちよくなっていたが、次第に照れてくる

9 ふ——ふふ、にふふふ……ふ、う——

10 う、も、もういいです、長いですよ、君

11 女の子は、そういうのに弱いんです

12 気をつけた方がいいですよ

13

14 ち、違います、褒めるなってことではなくて、えと——

15 ……も、もういいです、何でもないです

16

17 //一行目で咳払いをして気を取り直して

18 んんっ

1 と、とにかく、私は今機嫌が良いので

2 君が先に入っていていいですよ

3 私は先に住处に戻った——はい？

4

5 ——後で、いい？

6 先に私が入るってことですか？

7 別に構いませんが——

8

9 ああ、なんだ、そうですか

10 喉が渴いたんですね

11 では、私が水浴びしてる間

12 小川の方で口を潤してきてください

13 道は——そうです

14 木を目印に、道なり、です

15

16 //冒頭で「正面・近」へ移動 吐息多めな有声囁き

17 ふふ、覚えてて偉いですよ、よしよし

18

1 //冒頭で「正面・中」へ戻る 囁きストップ

2 —では、十分水を飲んだら

3 先に住处に戻っていてください

4 私も水浴びを終えたら、すぐに戻ります

6 では、また後で

8 SE：水音ちやぶ

10 //正面・遠 リラックスするも、自分の身体が視界に入る

11 —ふう…気持ちい…

12 ん—う、おっぱい、全然大きくならない…

13 …ま、まあ、まだ子供だし、普通くらいの大きさ—

14 —といっても、過言では…ない、という見方も

15 できないこともない、か…

17 SE：水音じゃぶん

1 //天国の家族に向かって呟くように

2 ……

3 しかしまさか、人間と寝食を共にする日が来るなんて…

4 …お姉様、妹達

5 人生は、何があるか分からないですね

6 相手は、少し——いえ

7 とても頼りない、小さな男の子ですが

8

9 それでも——

10 争うことなく、武器を取ることもなく

11 …対話を、しています

12 見ていてください、お姉様

13 空の向こうで、どうか私を——ううん、私達のことを——

14

15 SE: 主人公が動いちゃってガサッ

16 SE: 水音 激しく立ち上がる

17

18 //突然聞こえた物音に対し警戒心MAXで

1 キャラ声を崩さないながらも声を張って

2 ——！

3 誰ッ！

4

5 //1〜2行目で「正面・中」まで近付く

6 相手が主人公だと気付いて一瞬困惑

7 ——ん？

8 あ、あれ？

9 ——な、なんだ、君ですか

10 魔物かと思って驚きました

11

12 //母性を感じる優しい声色で

13 …で、どうしたんですか

14 そんなに体を縮めて——何か、怖いことでもありましたか

15 ほら、話してくれないとわかりませんよ

16

17 //もじもじしてなかなか答えない主人公に対して優しく

18 ん…一旦、住处へ戻りますか？

1 私ならもう十分泉で休みましたし

2 話があるなら住処でも大丈夫です

3 さ、立ってください

4

5 ——ん？

6 立てないんですか

7 大丈夫ですよ、ほら、私の手を握ってください

8 怖くない、怖くないですよ

9

10 さ、立ってください

11 せーの、んっ——

12 ほら、立てましたよ、ふふふ

13

14 //勃起に気づく

15 大丈夫ですよ、怖くない、怖くな——あっ…

16 これ、おちんちんが…

17

18 //勃起の理由に気づき、尋問

1 ……

2 …君、顔を上げて、私の目を見なさい

3

4 小川へは、行きましたか

5 目を逸らさないでください

6 はいか、いいえで答えるんですよ

7 小川へは、行きましたか

8 …はい、そうですね

9 では本当は、何をしていたんですか

10 うじうじしないで答えてください

11 本当は、小川に行かないで、ここで、何をしていたんですか

12 …はい、そうですね

13 では最後の質問です

14

15 私に、嘘を、ついたんですか

16

17 // 悲しそつに

18 ……

1 そうですか

2

3 …先に、住処に戻っていてください

4 はい

5 私も、すぐ戻ります

6

7 SE：足音 フェードイン

8

9 ／正面・中 声デフォルトで

10 戻りました

11

12 ／必死に頭を下げて謝る主人公に対して

13 ――！

14 も、もういいです、そんなに謝らなくても

15 顔を上げてください

16 男の子は、女の子の裸を見たくなるものですし

17 いけない気持ちになると

18 おちんちんがそうなるかもしれないって、聞いてますし…

1 も、もう謝らなくていいですって
2 反省してるのはわかりましたから

3
4 —へ？

5 かわいい、ミミちゃん先輩の裸が

6 どうしても、見たくて——？

7 も、も、もうっ、いいですってばっ

8

9 //落ち着いて

10 …はい？

11 「怒ってないの？」ですか？

12 ……

13 怒ってます

14 とっても怒ってます

15 違います、裸を見られてことにはありません

16

17 …君が、嘘をついたことに、です

18

1 私達、種族が違うのに、こうして言葉を交わせるんですよ

2 分かりあうことも、助け合うことも

3 手を取り合うこともできるのに…

4 …嘘なんて、寂しいじゃないですか

5

6 だから、怒ってます

7 とっても怒ってます

8 とっても、とっても…悲しかったです

9 …嘘だけは、やめましょう

10 私との約束です

11 いいですか？

12

13 //2行目で「正面・近」へ移動 優しい声色で

14 移動後、トラック終わりまでずっと吐息多め有声囁き

15 はい、いい返事ですよ

16 …だから、涙を拭いてください

17 ふふふ、はい、よしよし

18

1 //声戻して

2 —で、大丈夫なんですか、おちんちんの方は
3 ちよっと脱いで、見せてみてください

4
5 はい

6 大きく腫れ上がると聞いてますし…
7

8 おかしなことになっていないか

9 確認のために一応、です
10

11 SE:ズボン脱がされる
12

13 …む…これは—
14

14 —小さい、ですね
15

15 い、いえ、そういう意味ではなくて
16

16 腫れ上がっては、ないですよね
17

17 うーん…?
18

1 SE：おっぱい見せてくる

2

3 //興味本位で乳首を見せる

4 勃起に興味津々な様子で

5 おっぱい、チラッ

6 お、おー、おおー…

7 本当に大きくなった…

8 えっちなものを見ると、こうなるんですね

9 …こんな小さい胸でも、えっちだと思ってくれるんですね

10

11 で、どうすれば小さくなるんですか

12 ——ふむふむ、なるほど

13 時間が経てば治るんですね

14 では、ちょっと待ってみます

15

16 //凝視して待つも小さくならない 「じー」は5秒くらい

17 じー…

18

1 …あ、あの

2 どれくらい、かかるんですか

3

4 わ、分からない？

5 あそ、そうだったんですね

6 …すみません、私がおっぱいを見せたばかりに

7 じゃ、辛くさせて…

8

9 …はい？

10 じゃ、じゃ？

11 はい…はい——

12 …擦ると、出る？

13 おしっこですか？

14

15 …白い？

16 白い、おしっこ…？

17

18 …それ、誰かに相談したことは…？

1
2 い、いえ、だって…

3 おちんちんからそんなのが出るなんて
4 何かの病気なんじゃないですか…？

5
6 —へ？

7 気持ちいい…？

8 しかも、それを出せば、早く収まる、と…

9
10 SE：触る

11
12 //ー行目で「正面・密着」へ移動

13 興味本位で触れてみるも熱くて驚く

14 ふーん…

15 あ、熱っ！

16 え、え——こ、これ、本当に大丈夫なんですか

17 は、はあ…ならまあ、いいんですが…

18

SE：手口キ

2

3 しゅ、しゅ

4 …これで、あってますか

5 ふふふ、いい顔ですね

6 おちんちん、気持ちいいんですね、ふふ

7

8 でも、おちんちんがこんなに熱くて、白いおしっこが出て

9 しかもそれがとっても気持ちいいなんて

10 やっぱり、何か病気に罹ってると思います

11

12 //柔らかく優しい声色で

13 街に着いたら調べてみましょう

14 ふふふ、心配しなくても大丈夫ですよ

15 帝都は人口も多いですから

16 お医者さんも沢山いるはずですよ

17 君のおちんちん、きっとよくなりますよ

18 しゅ、しゅ

1
2 病氣、怖いんですか…？

3 大丈夫ですよ、心配無用です

4 頭、なで、なで

5 おちんちんも、よし、よし

6 ほら、もっと私にくっついていいんですよ

7

8 SE：衣擦れ

9

10 //冒頭で「右・耳元密着」へ移動

11 ふふふ、あったかいですか？

12 そつですよ、安心していいんですよ

13 ぎゅー…

14 っじゅ、っじゅ

15

16 お耳、真っ赤になってますね

17 だめですよ、もっとリラックスです

18 よし、よし

1 おちんちん、しんじ、しんじ

2

3 んー…

4 では、じいじまめ

5

6 //耳舐め ねっとりえっちに

7 んあ——はむっ

8 ちゅる、じゅるる、れうれう、ちゅっ♡

9 んちゅ、ぢゅづづづっ、ぢゅるるるっ♡

10 んっんっ、うあれろ、じゅるるっ、ちゅむるるうっ♡

11 んちゅ、じゅっじゅ、んんむっ、れうれう——♡

12 んちゅる、じゅう、むぢゅちゅちゅ、じゅっる♡

13 ん、ちゅっ——じゅるるっ♡

14 んっんっ——れう、ちゅっ♡

15 じゅるる、れうれうれう、んちゅ、ぢゅっ、じゅるるっ♡

16 ——ぷはあっ

17

18 ふふ、気持ちいいですか

1 まだ怖かったら、ちょっとだけ
2 おっぱい触っても、いいですよ
3 ふふふ、はい
4 かわいいミミちゃんの優しさに
5 思いつきり甘えていいんです
6 よーし、よーし
7 しーじ、しーじ
8
9 //おっぱいを触られて少し驚く
10 んひゅっ！
11 ふ——んふふ、ちょっと驚いただけですよ
12 だからそのまま、おっぱい触っても、大丈夫です
13
14 //冒頭で「正面・密着」へ移動
15 ——ん、どうしたんですか？
16 …な、なるほど
17 おちんちん、もっとぬるぬるしてた方が
18 いいんですね…

1 んう…でもこの辺には

2 粘液を出すシヨロンの花はないですし…

3

4 //冒頭で「正面・近」へ

5 …では、こうします

6

7 //唾液を垂らす

8 んえあ…んっ――

9 う、その顔…や、やっぱりこれは嫌でしたか

10 すみません、ぬるぬるしたものが、これくらいしか――へ？

11

12 //そうじゃなくてすごく良い、と言われて

13 え、あ――う――そ、そっちでしたか

14 いいです、そんなに喜ばれると照れます

15

16 そ、そうですよ

17 女の子は、そういうことを言われると

18 つい嬉しくなっちゃうので、やめた方がいいです

1 ふふ、おちんちん、気持ちいいんですね

2 私の裸を見て、おちんちんむくむくさせるの、気持ちいいですね

3 私のおっぱい見て、しこしこ、気持ちいいですね

4 おちんちん、よし、よし

5

6 SE：乳首なめ 一回

7

8 //一瞬おっぱいを舐められ、一行目後半で「正面・密着」へ移動

9 しじ、しk——んひゃうつ♡

10 お、おっぱい、んっ、舐めるのは、ダメですよっ

11 ふう——…いいですか

12 女の子のおっぱいは

13 赤ちゃんにお乳をあげるためにあるんですよ

14 私みたいな子供のおっぱいは

15 ぺろぺろする意味がないんです

16 それに君は赤ちゃんじゃないんですから

17 おっぱいちゅーちゅーしちゃだめです

18

1 SE：乳首なめ

2

3 //無視して舐められ、「右・耳元密着」へ移動

4 分かります——んひゅっ♡

5 だ、だめです、ダメですよっ、あんっ♡

6 私がくすぐりたい、だけ、んっ、なのでっ♡

7 あ、ん、そこ——んうっ♡

8 ん——っふ、そんなにちゅーちゅー、んう、する、なんてっ♡

9 あ、赤ちゃん、じゃ、ふんっ、ないんです、から、んあっ♡

10 44

11 SE：舐めるのをやめる

12

13 //2行目で「正面・密着」へ移動

14 はあ、はあ、はあ…

15 ——ん？

16 でそっ？

17

18 ——あ、白いおしっこ、出るんですね

1 はい、出してください

2 ふふ、白いおしっこ、出してください

3 私の手で、白いおしっこいっぱい出して

4 気持ちよくなっていいんですよ

5 はい、じょろろろ〜——

6

7 SE：射精

8

9 //〔正面・近〕へ離れて

10 思ったのと違う出方で驚く

11 へっ？

12 はう、ふえ、え、こ、こっいう、え——

13 あう…こっいう感じ、なんですネ

14 ぴゅっぴゅって、出る、感じ…

15 凄い勢いで——見てください

16 おっぱいにもかかっています…

17

18 SE：ぬちゅ

1

／精液を触ったり嗅いだり

2

ねばねば、ですね…

3

ん——くんくん——ぐひえ

4

へ、変な匂い…

5

こんなのが出るなんて…

6

7

医学の知識はないですが

8

やっぱりこれ、病気だと思います

9

おちんちんからこんなのが出るなんて

10

聞いたこともないです

11

12

はい

13

おちんちんが出すのは

14

おしっこ、精液だけです

15

おしっこは、君も知ってますよね

16

17

18

／ピュアなのでキスの話題は恥ずかしい

1 おちんちんの話よりずっと恥ずかしそうに

2 で、精液というのは

3 あの…赤ちゃんを作るときに、出るものなんです

4 だから、その——ち、ちち、ちゅーをしないと、出ないんですよ

5 そ、そうです

6 赤ちゃんは、ち、ちゅーすると、できますからね

7 だから、この白いねばねばは、どっちでもないはずですよ

8

9 ——ん、不安にさせちゃいましたか

10

11 〃〃一行目で「左・耳元密着」へ移動

12 柔らかく優しく母性あふれるダウンナーさで

13 大丈夫ですよ、はい、ぎゅー…

14

15 きっと、お医者さんが治してくれますよ

16 怖くない、怖くないですよ、よし、よし

17

18 …ふふふ、今日は、抱き合って寝ることにしましょ

1 んぎゅんぎゅん……ってしたまま眠れば

2 とってもあったかくて、安心ですよ

3

4 私は、神様ですから

5 一緒にいれば絶対に怖くないんです

6 ふふふ

7

8 トラック2 終

9

トラック3 君の夢と私の夢

■場所ー旅の道中、とある平原

SE：平原

//正面・中 旅の道中 囁きストップ

そういえば、どうして帝都へ行きたいんですか？

——ああいえ、結局聞きそびれたまま旅に出て
結構経ってしまったなと思ったので

——帝国騎士団に、入りたくて…？

//ジト目で言った後、ばつが悪そうにし、優しくなでなで

……

…君、全く戦えないじゃないですか

う…そんな顔しなくても…

1 //冒頭で「正面・近」へ移動 吐息多め有声囁き

2 ふう…私にちよっときつく言われただけで

3 そんな泣きそうな顔してるうちは

4 夢のまた夢ですよ

5 はい、よし、よし

6

7 帝国騎士団を目指す強い男の子なら

8 泣き虫は治さなきゃいけませんよ

9

10 //冒頭で「正面・中」へ移動 囁きストップ

11 ん…まあ、そうですね

12 確かにあそこは、小さい子供でも見込みがあれば採用すると

13 私も耳にしたことがあります

14 3食ついて寮暮らし、お金もそこまでかからないとか

15

16 一人前の騎士となって、それなりに仕事をこなしていれば

17 数年で返せる程度のものだそうですよ

18

1 ≪僕は入団試験に受かるかな？ と聞かれ

2 — はい？

3 む、私が神様だからって

4 何でも分かったとは思わないことですよ

5 君が入団試験に受かるかどうかなんて

6 私に分かるはずないじゃないですか

7

8 ≪一族を滅ぼした帝国騎士団のことを思い出して、

9 一行目だけ少し暗く

10 しかし——騎士団、ですか

11

12 あ——ああいえ、ああいうのに憧れるのは

13 もっと喧嘩の強そうな、やんちゃな子かと思っていたので

14 君にそんな気持ちがあったなんて…少し、意外で

15

16 — 救って、もらった？

17 はい——はい…

18 — ツ

1 …そう、ですか

2 村が襲われた日に

3 襲撃してきた害獣から君を守り、逃がしてくれたのは

4 騎士団長だったんですね

5

6 //一行目で「正面・近」へ移動 吐息多めな有声囁き

7 少し無理ありそんな優しい声色で

8 …いえ、辛いことを思い出させちゃいましたね

9 大丈夫ですよ、よし、よし

10

11 //冒頭で「正面・中」へ移動 囁きストップ 声戻して

12 —それだけじゃ、ない？

13 はい…はい—

14

15 ——そうですか

16 騎士団長は、

17 その背中に襲撃の火の粉を浴び、血を流しながらも

18 君の命を、守ってくれたんですね

1

2 その日から――

3

4 //1、2行目の表現は後々出てきますので、

5

少しだけゆっくりめに、

6

聞いている人の印象に残るようにお願いします

7

――とっても強くて、

8

平和を守るためなら、自身の犠牲も厭わない――

9

10 そんな騎士団長に憧れた、と

11

12 //今度はちゃんと優しい声で

13

――はい？

14

ふふ、笑ったりなんてしません

15

素直な君らしい、素敵な夢だと思います

16

私は、心から応援していますよ

17

18

//声戻して

1 —はい？

2 私に、夢、ですか？

3 ん——はい、あります

4

5 あらゆる種族が手を取り合って

6 支え合って生きていける世界——

7 そんなものを、夢見ています

8

9 ふふ、驚きましたか？

10 君の夢なんかよりずっと大きいでしょう

11 私は大先輩ですからね

12 これくらい大きい方がちょうどいいんです

13

14 //この人なら私達の夢を叶えられるかもしれない、と、

15 伏し目がちに独り言

16 …やっぱり君は、笑わないんですね

17 君が本当に騎士団長になれば、或いは——

18

1 //向き直って

2 2行目冒頭「さ、」で立ち上がるイメージです

3 —ふふ、いえ、何でもありませんよ

4 さ、休憩もこの辺にして、先に進みましょう

5 あと数分も歩けば、町が見えてくるはずですよ

6 帝都ラインセニアではなく

7 辺境の小さな町ですが…

8 少し休むにはぴったりのはずですよ

9 さ、行きますよ

10
11 SE：平原 フェードアウト

12
13 SE：山道 フェードイン

14
15 (間)

16 //正面・中 町を去ったあと

17 長閑で、お茶も美味しい、良い町でしたね

18 ふふ、君も、リゴンジュース、美味しかったですね

1
2 // 懐から一冊の本を取り出す

3 ですが、一番の収穫は——これ、ですよ

4 ふふふ、君がジュースに夢中になってる間に

5 小さな古本屋を見つけたので

6 おちんちんについて詳しく書いてありそうな本を買ってみました

7

8 治療はできませんが、原因や病名がわかれば

9 何かできることはあるかもしれませんから

10

11 // 褒められて嬉しそう↓照れる

12 ふふ、そうです、もっと褒めて良いんですよ

13 この、かわいいミミちゃん先輩を

14 にふふ、ふふ、ふ…

15 ——う、む、そ、そんなに言わなくていいです

16 この前も注意したはずでs——ん？

17

18 SE：手をとって走り出す

1

2 //一行目のラストで「右斜め前」へ一気に移動

3

いきなり手を握って、どうし——はうっ！

4

な、ど、どうして走るんですか、いきなり——

5

6 SE: 猛獣の唸り声

7

8

…ッ！

9

あ、あれは、猛獣リオルラ——！

10

ま、まさか君、あれに気づいていたんですか…？

11

い、いえ、今はいいです、一緒に走りましょう！

12

リオルラの縄張りなら、そこまで広くないはずです！

13

14 SE: 全SEフェードアウト→イン

15

16 //正面・中 膝に手をつき、4〜5行かけて息を整えていく

17

はあ、はあ、ハア…

18

何とか撒きました、はあ…

1 君は、はあ、大丈夫ですか、ハア…
2 む…私よりも平気そう、ですね、ふう…

3
4 //嬉しいような声で

5 いえ、ありがとうございました

6 君が気付いてくれていなかったら、私はもしかしたら—

7 —ふふ、意外と頼りになるじゃないですか

8 見直しました

9 それに、私の手を引いて走ってくれた時—

10
11 —かっこよかったですよ、くすっ

12
13 //性的なことは何も知らない 独り言

14 —ん？ あれ？

15 何でしょう、これ…

16 お股の辺りが…ん…？

17 濡れてる…？

18

1 //主人公になんか話しかけられて顔を上げる

2 ——へっ？

3 あ——ああ、確かに、もう日が暮れてしまいそうですね

4 ちょうどこちら辺は危険生物も少なそうですね

5 寝るのにちょうどいい場所を探しましょう

6 おちんちんしこしこは——今日は、無しにしておきましょうか

7

8 む、がっかりしてるみたいです

9 でも、ダメですよ

10 確かに今までは、ほぼ毎晩しこしこしてあげてましたが——

11

12 //冒頭でぐいっと「正面・近」に接近して 吐息多め有聲囁き

13 いいですか、あれは病気なんですよ

14 いくらおちんちんが気持ちいいからって

15 何回もするのは体に良くないはずですよ

16

これまでは、君に涙目をお願いされたから

17

特別にしてあげただけです

18

1 //3行目まで独り言気味に、だんだん萎む声で

2 そ、それに、毎日おっぱいをちゅばちゅばされるのも

3 は、恥ずかしい、ですし…

4 私のお股も、なんか変、ですし…

5

6 な、何でもないです

7 とにかく、今日はゆっくり休むことにしましょう

8 いいですね

9

10 //優しくなでなで

11 はい、いいお返事ですよ、よし、よし

12

13

トラック3 終

14

1 トラック4 はじめての恋とはじめてのセックス

3 ■場所ー帝都近くの河川付近

5 SE: 焚き火・夜←

7 //正面・中 水浴びを終えた主人公に一声かける

8 久々の水浴び、どうでしたか

9 ふふ、同意見です

10 最初の森にあった泉の方が

11 水が澄んでいて綺麗でした

13 まあ、お金をほとんどない持たない私達が

14 自然に文句を言う資格はありませんね

15 近くに川があっただけ運が良かったと思うべきでしょう

16 それに、ここは平地ですから、川で言えば下流――

17 水があまり澄んでいないのも、当然ですね

1 —ふふ、そうですね

2 もう暗くて、ここからではよく見えませんが

3 外壁の向こう、街の灯りは見えますよね

4

5 —はい

6 あれが、帝都ライセンスニアです

7 今日はここで野宿して、明日の朝、帝都に入りましょう

8

9 //今からセックスのことを話すのだと決意して

10 で、では、座ってください

11 —は、はい、とっても大事な話があるんです

12 君の病気について、です

13

14 SE：座る

15

16 ま、まずは昨日の話からですね

17

昨日、君がぐっすりと眠りについた後

18

私は焚き火を灯りにして本を読みました

1

／セックスのことを知ってしまったら

3

途端におちんちんと口に出すのが恥ずかしい

4

…は、はい、その、数日前に町で買った

5

お——おち、おちんちんの、本、です

6

あれを読み切った結果、その——

7

君の、お、おちんちは、病気じゃ、ないです

9

はい、そうです、心配しなくてもいいです

10

——へ？

11

はい、一晩で読み切りましt——

12

13

／早口でわたわた言い訳

14

——ち、違いますよ？

15

あくまで医学的な知見を得るために読んだだけで

16

その——変な気持ちはなく

17

き、興味、ただの興味で——

18

1 あちが、け、決して変な意味で

2 興味があつたわけじゃないんですよ

3 あくまで君のおちんちんのことを深く知るために

4 読んだだけというか

5 あで、でもそれも

6 決して深い意味はなく、ですね、えと、うう…

7

8 //素直に感謝される

9 ——へ？

10 あ——

11 ——い、いえ、いいんです、感謝なんて

12 結局、病気じゃなかったんですから

13

14 ……そ、それで、ですね

15 おちんちんから出る、白いねばねばは、その——

16 精液、だったんです

17 はい、赤ちゃんを作る素になる、その——

18 と、とってもえっちなおしっこ、だったんです

1

2 //ちゅーしてないのに精液が出たの…？ と聞かれて

3 は、はい、そう、そうですね、その通りです

4 私もそう思いました

5 まだ、ち、ちゅー、してないのに、って

6 ですが、ちゅーをしたことがないのに

7 精液が出たのには、ちゃんと理由があって

8

9 う——じ、実は…

10 …お、驚かないでくださいよ？

11 実は——

12

13 ——ちゅーをしても、赤ちゃんはできないみたいなんです

14

15 //驚く主人公に激しく共感して

16 そ、そうですね、そうですね

17 驚き、ですよ

18

私も昨日、焚き火を蹴っ飛ばしちゃうくらい驚きました

1

//もぐもぐ

2

う——で、ですね

3

本当の赤ちゃんの作り方は…その——

4

お、おちんちんを、う——あ、あそこに、入れて

5

奥で、出して、それで——できる、という感じ、なんです

6

7

//え？ もう一回言って？ と聞かれて

8

う、うう、だ、だから、その——

9

お、女の子のお股に、おちんちんをずぶって、して——

10

11

——へ？

12

そ、そうです、女の子のお股には

13

お——お、おま、おまんこ、っていう

14

おちんちんを挿れるための穴があるんです

15

それで、お、おまんこの一番奥で精液を出すと

16

赤ちゃんができる、らしいです

17

18

1 そ、そうなんです

2 コウノトリさんが赤ちゃんを運んでくれるわけじゃなくて

3 本当の赤ちゃんの作り方は…う…

4 と、とってもえっちで――

5 ――セックス、とか、交尾とかって、呼ぶらしい、です

6

7 そ、それで、ですね

8 おちんちんから精液が出るようになるのは

9 セックスの準備万端っていう合図だそうで…

10 あ、あとは、お股――お、おまんこを

11 ぬるぬるに濡らした女の子がいれば

12 セックスができる、そう、です

13

14 そ、そうです、女の子は、好きな男の子を前にと

15 お股をびちょびちょに濡らして

16 おちんちん挿れてくださいって

17 アピールを始めちゃうれしいんです

18

1 は、はい

2 う——そ、それで——

3

4 //実質告白なので、かなり勇気を出して

5 わ、わわ、私とっ！

6 私と…セックス、しませんか

7

8 そ、そうです、セックスです

9

10 //トーン落として落ち着いた感じで

11 …最近、ずっとおかしいと思ってたんです

12 君と話しながら歩いているだけで

13 どんどんお股が濡れてきて…

14

15 き、君は気付いてなかったかもですが

16 おちんちんしこしこをした後は

17 私が座ってた場所に水溜りができるくらい

18 お股からお汁が出てたんですよ

1 私、君と同じ病気に罹ったんだとばかり思っていました…
2 ようやく、気付きました

3
4 —私、君のことが、好きだったんです

5 君のおちんちんが欲しいって

6 体が必死にアピールしてたんです

7

8 //2行目から、フラれた時の言い訳を早口気味につらつら

9 最終行ラストで抱きしめられて「右・耳元密着」へ移動

10 …君は、どうですか

11 き、嫌いなら、いいんです

12 それなら今日はもう寝ますし

13 どっちにしる明日にはもう帝都です

14 私達の関係が大きく変わるわけでは——はうっ！

15

16 //指示があるまで吐息多めな有声囁き

17 主人公にも告白され、恥ずかしそうながらも幸せそうに

18 ん…はい…はい…

1 …へへ、そんなに必死に告白しなくても聞こえてます
2 …はい

3 私ですよ、よし、よし

4

5 //一行目で「正面・密着」へ

6 じゃあ――

7

8 SE: 足を開いて見せる

9

10 ――どう、ですか

11 見えますか、私の、おまんこ

12 ふふふ、おちんちん、かちかちですね

13

14 //自分がカミサマと名乗ったことをすっかり忘れて

15 …私たちは種族が違いますから

16 子供はできないと思いますが――

17 ――体がこんなに欲しがってるんですから

18 きっと、神様も、許してくださいますよね

1
2
——え？

3
あ——ふふっ、そうです、私も神様です

4
だから…もっとすごい神様が、です、ふふふ

5

6
SE:ぬるっ

7

8
あ…おちんちん、当たってます

9
——はい

10
そのまま…奥まで入れて、いいんです

11

12
SE:挿入

13

14
//冒頭で抱き合って「左・耳元密着」へ移動

15
挿入されて少し甘おほ声

16
あ——っ、おちんちん——

17
入っ——て、ぐ…る——ん、お——ッ

18
おお——ッ、ふー、ふー、ふーっ——♡

1
2 す、すごい、ですね…っ

3 本当に、っ、入ってます…っ

4 それに、こんな——こんなに、っ——

5 ——気持ちいい、なんて…

6
7 君は、どうですか…？

8 苦しく、ないですか…っ？

9
10 ふ——ふふ、そうですか

11 相性ぴったり、ですね…♡

12
13 じゃあ——好きに動いて、いいんですよ…♡

14 はい…♡

15 これは、セックス、なんです…♡

16 男の子が、おっきくなったおちんちんで

17 女の子のおまんこを犯す、えっちなこと、なんです…♡

18 遠慮してたら、勿体ないですよ…♡

1

SE: ュストン↑

2

3

//位置そのまま 甘おほ声

4

指示があるまで吐息多めな有声囁き

5

だから——んお…ッ♡

6

んおおっ、おっ、おお、おほっ、おおおお…ッ♡

7

んうおっ、んう、おお…っ♡

8

おっお、おおおお…っ♡

9

んっ、んっおおお、おっおお、おあ…♡

10

おおおっ、おっ、んう…お♡

11

うおおおっ、うあ、んっ、ふうああ…っ♡

12

んっおっ、んおおっ、んぐっ、んごおお、っおおお…♡

13

んああきもち、いっっ、んお…っ♡

14

オッ、んぐっお、おおお…っ♡

15

んおっ、んっ、んっ、んうううびっ——♡

16

17

18

SE: ュストン↑

1

／＼行目で「正面・密着へ」移動

2

3 は、はあ、はあ――

4

――ふふ…♡

5

君、いつもはあんなに泣き虫で弱々しいのに…

6

私のおまんこを犯すときは

7

そんな顔、するんですね…♡

8

9 男の子じゃなくて――雄、って感じ、です…♡

10

雌が逃げないように覆い被さって、一方的に腰を振って

11

おまんこでおちんちん擦って気持ちよくなる、雄…♡

12

――ふふ♡

13

私にちよっと言われただけで

14

そんな顔しちゃ、だめですよ…♡

15

16 ／＼行目で「右・耳元密着」へ移動

17

んっ――

18

そんな顔されたら、かっこいいのと可愛いので

1 私のおまんこ、もっとぐじゅぐじゅに
2 なっちゃんじゃないですか…♡

3
4 —ふふ♡

5 いいですよ、一方的に腰を振っても…♡

6 私も、ちゃんと気持ちいいから、大丈夫なんです…♡

7 だから君は、何も考えずに

8 おちんちんを気持ちよくすることに集中すればいいんですよ…♡

9

10 ぱんぱん、ぱんぱん、って…

11 好きにして、いいですよ♡

12

13 SE：♪スーテン↑

14

15 //位置そのまま 甘おほ声

16 だから——んお…ッ♡

17 んおおっ、おっ、おお、おほっ、おおおお…ッ♡

18 んうおっ、んう、おお…っ♡

1 おっお、おおお…っ♡

2 んっ、んっおおお、おっおお、おあ…♡

3 おおおっ、おっ、んう…お♡

4 うおおおっっ、うあ、んっ、ふうああ…っ♡

5 んっおっ、んおおっ、んぐっ、んごおお、っおおお…♡

6 オッ、んぐっお、おおお…っ♡

7 っはあ、はあっ——っ♡

8

9 SE:ピストン 徐々に激しく←

10

11 //冒頭で「正面・密着」へ移動

12 だんだんピストンのテンポを上げられて、

13 オホ声をやや激しめに

14 絶頂に向かってラストスパート

15 んオっ、腰、早くなっ——ングっ♡

16 はあ、はあッ、どうしたんですか、んおっ♡

17 もしかして、おっ、射精、ですか、んうおっ♡

18 白いねばねば、んおっ、奥、おっ、奥に、おお♡

- 1 おまんこの奥、に、おっ、出したいんですk——おおおっ♡
- 2 んう、おっ♡
- 3 ぎもち——ふうふうふうっ♡
- 4 ふぐっ、くっ、かつッ——ぐ、ぐんっ、んおおおおっ♡
- 5 っはっッ、おちんち——んんんんんっ♡
- 6 は、は、はっ、は——♡
- 7 オっ、いいです、よ、おっお、出してくだ、さ——おおっ♡
- 8 んっ、んっおおお、おっおお、おあやばい、ですっ♡
- 9 私、も、んおッ♡
- 10 おっ、絶頂、おっ、しそっです、おほっ、おおおっ♡
- 11 んうおっ、んう、おおっ♡
- 12 おっお、おおおおっ♡
- 13 んっ、んっおおお、おっおお、おあ——ッ♡
- 14
- 15 ああくるッ♡
- 16 おっ♡ おっ♡ おっ♡ おっ♡ おっ♡
- 17 おあくるっ♡ おまんこ、ぐっ、きてr——んおおくるっ♡
- 18 ——ぐるッッッ——♡

1

SE: 射精

3

／／絶頂 叫ばずに甘オホとろとろに

4

おっ、おおー——っ♡

5

——っく——おっ——♡

6

う——おおお——♡

7

ん、んうお——お、おおおお——♡

8

ふ、ふー、ふーっ——♡

9

あ、あ、うう、う——

10

11

／／冒頭で「左・耳元密着」へ移動 幸せそうに

12

ふふふ——♡

13

お腹の奥、あったかくなってます……♡

14

15

精液、出したんですね……♡

16

白くてえっちなおしっこ、私のおまんこに、出したんですね……♡

17

おちんちん、気持ちよくなれましたか……？♡

18

1

//冒頭で「正面・中」へ移動 囁きストップ

2

抜かずに激しめピストンされ、濁音気味の下品めなオホ声

3

——ん？

4

どうしまs——んぐオッ!?!♡

5

6

SE:ピストン 激しめ←

7

8

ま、待ってください、おッ♡

9

私、んっぐ、気持ちよ、くッ、なったばかり——おおっ♡

10

おっ、んオっ、んおおっ、おっ、オオ、おほっ、おおオっ♡

11

腰振り、さっき、より、速つくっ、なって——んおっ♡

12

おっ、おっ、んぐおっ、おおっ、しゅぐ、いっ♡

13

おっ、んぐっお、ああああッ♡

14

んっ、んっ、んっお、ふっふっふ——んぐオおおおっ♡

15

んおっ、んオお、おおおっ♡

16

おっ、んぐっ、うっうおっ、お、おおおおお♡

17

んぐ、んうう、んあああっ、ふんおっおっ♡

18

1 おっ、んっ、んうおお、うんっおおおっ♡

2

3 //冒頭で「右・耳元密着」へ移動 有声囁き 下品な甘オホ喘ぎ

4 ま、待ってください、っおぐっ、っおおお…♡

5 このまま、じゃ、んっ、私、また、お、オッ…♡

6 んぐっお、おおあ…♡

7 んおっ、んっ、んっ、んううううっ…♡

8 っおっ、んおおっ、んぐっ、んごおお、っおおお…♡

9 んあ、んお、オッ、んっお、おおおあっ…♡

10 んおっ、んっ、ん——っ…♡

11 あっ、オっ、んおおっ、おっ、オオ、おっ、おオっ…♡

12 おっ、んおっ、おおおあお…っ♡

13 んおおお——♡

14

15 SE:ピストン 射精に向けて速度UP↓

16

17 //冒頭で「正面・中」へ移動 囁きストップ 下品なオホ声

18 だんだんスピード上げてラストスパート

1 — オふッ！♡

2 は、はあ、んおっ、んぐっ、おっ、ぐおおおっ♡

3 おっ、ごほお、おうぐ、うおおっ♡

4 おっ、んおっ、おお、おっ♡

5 んっ、んぐ——あ待っ！——や、やばっ、くるっ♡

6 グるっ、またくるオおおおっ♡

7 おっ、おっ、おっ、おっ、おっ——♡

8 ああくるくるくるうううう——

9

10 ——グるッッ——！♡

11

12 SE：射精

13

14 //絶頂 叫ばずひろひろに

15 ンッ、おッ——おっ、うお——♡

16 おおお——♡

17 かひゅっ、ふ、ふっ、ふッ、ふーっ、ふー——ッ♡

18 おおお——っ♡

1 はあ、はあ、はーっ…

2

3 //ー行めでで「左・耳元密着」へ移動

4 トラック終わりまでずっと吐息多めな有声囁き

5 —あ—ふっ、う、はあ、はあ、はー、はーっ…

6 はあー…っ、ふーっ、ふうー、ふう…

7

8 もう—♡

9 おちんちに正直になりすぎですよ、君…♡

10 —ふふ、そうですか

11 幸せなんですか、ふふふ

12 よーし、よーし…♡

13 私も、とっても幸せですよ…

14

15 —ん？

16 …ふふ、はい

17 あんなに激しく体を求められたら

18 …女の子の体は嘘をつけなくなっちゃうんですよ

1

2 私のおまんこが、沢山きゅんきゅんしてたの、

3 おちんちんで感じませんでしたか？

4 —ふふ

5 そうついことです

6

7 //冒頭で「正面・密着」へ移動

8 む、どうしたんですか、そんなにぐったりして

9

10 —眠くなってきた…？

11

12 //ちよっとジト目気味に

13 ……

14 さっきまであんなに雄の顔して

15 男らしいセックスをしていたというのに…

16

17 気持ちよく精液を出した途端にこれですか

18

おちんちんを女の子で気持ちよくして満足したから

1 今度は女の子にぴったりくっついたまま

2 寝ちゃいたいんですか

3 可愛い顔して、やっぱりちゃんと雄なんですネ

4

5 //優しく柔らかく笑いながら

6 …もう、しょうがないですね

7

8 //冒頭で「右・耳元密着」へ移動

9 じゃあ、しばらくこうしてましよう

10 ——ふふ♡

11 これではまるで、恋人みたい、ですね

12

13 ——ん？

14 ふふふ、そうでした

15 もう、恋人、でしたネ

16

17 //別れを切り出す

18 ——む、あったかくて、もう寝ちゃいそうなんですネ？

1 それは――もう少し我慢してください

2 実は、とっても大事な話があるんです

3
4 ―はい

5 明日にはもう、帝都に着いてしまいますから

6 だから――

7
8 ―聞いて、くれますか

9
10

トラック4 終

11

12

13

トラック5 朝日とキス

■場所―帝都前の河川付近

SE：小鳥の囀り

//正面・中 囁きストップ 翌朝

顔、洗ってきましたか

はい、私から見てもばっちりです

これなら大丈夫ですね

見てください

夜は暗くてあまり見えませんでしたが一――

――あれが、帝都ラインセニアです

もう、三十分も経たずに到着できそうですね

道に迷うこともなさそうです

1 ふふ、はい

2 ですから——約束通り、私達はここでお別れです

3

4 そんな顔をしてはダメです

5 昨夜も散々泣いたじゃないですか

6 君も——私も

7 ですが、これだけは曲げません

8

9 昨日も言った通り、帝都には人が沢山います

10 私の正体がバレしてしまうかもしれません

11 それに——頭の固い騎士団のことです

12 神様に導かれた、なんて、宗教まがいの発言をしようものなら

13 入団試験には受かれません

14

15 ですから、これから

16 君が正しいと思う道を、君の意思で進むんです

17 大丈夫、君はとっても強い

18 腕っぷしなんかじゃない強さを、君は持っています

1 入団試験も、必ず合格します
2 騎士団長にも、必ずなれます
3 …カミサマが保証します、ふふ
4 分かりましたか
5
6 —いい返事です
7 では…本当に、お別れですね
8
9 ふふ、泣き虫は卒業ですよ
10 いいですか
11 こういう時こそ、笑うんです
12 悲しいお別れだって、笑顔で手を振れば—
13 —いつかきっと、素敵な思い出になります
14
15 //優しく笑いながら
16 …もう
17 そんな無理やりな笑顔では
18 騎士団長なんて夢のまた夢ですよ

1 …では一つ、約束をしましょう

2

3 私達は、死ぬまで、お互いのことを忘れない――

4

5 ――どうですか

6 思い出の中で、ずっと私達は一緒にいるんです

7 独りぼっちじゃないんです

8 全然寂しくないんですよ

9 …どう、でしょうか

10

11 ふふふ、君ならそう言ってくれると思っていました

12 じゃあ、指切りです

13

14 ふふ…まだ子供なのに、手は私よりも大きいんですね

15

16 SE：ぐびゅ

17

18 //少し悪戯っぽく

1 指切り、しましたね

2 ———しちゃいましたね？

3 ふふふ、カミサマは人間よりずっと長生きなんですよ

4 君が天寿を全うした後も

5 私の記憶の中で、君の情けない泣き顔が

6 ずっと生き続けることになるんです

7 ふふふ、とっても愉快ですね、むはは

8

9 //冗談めかしていたが、主人公はすごく真剣にしている

10 むふふり——む、もっと恥ずかしがると思っていたんですが

11 まあ——そうですね

12 そうついことなら、仕方ありません

13 …約束通り、ずっと覚えていることにします

14 ———ずっと

15

16 //【正面・密着】へ近づきながら 有声囁き

17 では、最後に——

18

1 //優しくキス

2 —ん——ちゅ

3
4 —ふふ、遂に、しちやいましたね、ちゅー…

5
6 //もう一度、今度はディープキス

7 —ん——ちゅ、ちゅる、れろ、れうれう、ん——

8
9 —私は、あなたのことが、大好きです
10 もしまたどこかで出会えたら

11 その時は、一緒にお茶でも飲みましょう

12 君は、その時になってもまだ、リゴンジュースかもしれないが

13
14 //一行目で「正面・中」へ離れる 囁きストップ

15 ふふ——

16 さあ、もう時間もありません

17 憧れた夢を、叶えに行くんでしょう

18

1 そうつ、そうつです

2 自分の足で立って、胸を張って…そうつ――

3

4 ふふ、そうつですよ、いい笑顔です

5

6 では――行っくらっしやい

7

8

トラック5 終

9

トラック6 エピローグ…いつか夢見た未来の話

■場所―数年後、団長室

SE：ドアが勢いよく開けられる

//正面・中

走ってきたため少し息が上がっている

真面目な語調ながらも、この吉報を早く伝えたい気持ちで

団長！ 報告です！

捕獲した害獣を地下収容所にて拘束しました！

如何いたしますか!?

斬首にて討伐――はっ！

では共に、収容所へ向かいましょう！

SE：BGM×2↓

1 〱左・斜め前 中

2 二人きりになった途端、普段通りの親しげな感じで

3 ふふ、遂にこの時が来ましたよ、先輩！

4

5 〱主人公はこれまで、ミミナの夢を叶えるため、

6 害獣を殺さない方針で騎士団を動かしていた

7 しかし、それによる害獣被害も増え

8 人々の暮らしが脅かされつつあったため

9 苦渋の決断で害獣討伐を解禁することにした

10 先輩が新団長として就任されて、早数ヶ月――

11 平和主義を軸とした方策はあまり実績が振るわず

12 各地の害獣被害も徐々に増え

13 騎士団の皆からも懐疑の目で見られ始めていましたが――

14 しかし、害獣討伐の方針を固めたとなれば

15 皆手の平を返して団長を讃えるに違いありません！

16

17 先輩が、害獣討伐をここまで決めた理由は

18 私には分かりかねますが――

1 何、少し遅れたからといって落ち込む必要はございません！
2 先輩には、誰よりも強い心がございます！

3
4 剣術も弓術も得意ではないのに

5 歴代最年少で団長に抜擢された理由は

6 その心の強さに他なりません！

7 前任団長も、先輩の真の強さを見抜いておられたからこそ
8 名指しでの大抜擢となったのです！

9
10 それに先輩には、私という右腕もございます！

11
12 入団以来、ずっと先輩の背中を追い続けた私は

13 先輩が新団長に指名された時、誇らしくてなりませんでした…！

14 ここまでの道のりは長く、苦しい時もありましたが――

15 それも今日で終わりです！

16
17 斬り落とした害獣の首を民衆の前で掲げたその時、

18 先輩の強い意志が、皆にも届くに違いありません！

1

2 SE：DEAD×2↑

3

4 //冒頭で [正面・中]へ移動

5 全ては、人類の平和のために！

6

7 // [右斜め前・中]へ移動しながら

8 さあ、入りますよ——

9

10 SE：金属製の重いドア

11

12 //右斜め前・中 指示があるまでしばらく固定

13 真面目で落ち着いた語調に戻して

14 主人公と違い、害獣は明確に敵であると認識している

15 せんぱ——団長

16 こいつが、我が部下達がこれまで追いつけていた害獣——

17 ——雌のエルフです

18 …ふん、こんな幼い害獣に

1 何年も騎士団がいいように翻弄されていたとはな

2

3 //数年ぶりにミミナを見た主人公の異変に気付いて

4 ——団長？

5 そんなに驚いた顔をされて——どうかされましたか？

6 もしや、この害獣エルフに見覚えが？

7

8 //正面・中 最後まで固定

9 一目見て、主人公が騎士団長になったと気付いたが

10 主人公の身を案じ他人のふり

11 はて、何を言っているのでしょうか

12 まさか帝国騎士団の長ともあろうお方が

13 私のような人類の敵と、親交があるとでも？

14

15 ほう…知能の高いエルフ族は

16 人語を話せるとは聞いていたが…やはりか

17

人語を操り、嘘をつき

18

多くの人間を狩ってきたというわけだな…？

1

——あ、ああいえ、団長

2

もちろん私は団長を信じております

3

…仮に、団長と害獣が親密な仲であった、とあれば――

4

国家叛逆の罪に問われ、極刑は免れないでしょうから

5

6

――そうですか、なら良かったですね

7

こんな人間、私は見たこともないです

8

9

――む、どうしましたか、そんなに震えて

10

騎士団長様ともなれば、害獣など慣れっこでしょう

11

12

おい、害獣

13

気安く口を開くな

14

…団長

15

害獣をこの距離で見るのは初めてかと思いますが――

16

見ての通り、拘束しています

17

襲ってくることはありませんから、大丈夫です

18

1
2 //騎士団長ともあろう者が害獣に近付いたことがない事実には驚く

3 …なんと、害獣を狩ったことがないなんて――

4

5 //これまで主人公が

6 自分のために害獣を殺さない方針を敷いていたのだと知り

7 じんわりと、噛み締めるように嬉しそうに

8 そう、だったんですね

9

10 //しかし、自分がこうして捕えられ、

11 団長の前に突き出されているということは

12 やむを得ない理由で討伐を解禁した証であろうと気付く

13 同時に、自分がここで生き延びようとすれば、

14 主人公の騎士団長としての人生を邪魔してしまうと察する

15 そして、躊躇なく死を選ぶ

16 ……

17 ——そう、ですか

18

1 //吹っ切れたようなフラットな口調で

2 ということは、害獣討伐の名誉に与って

3 歓喜に打ち震えている、ということですね

4 何と言っても、前任の団長様が殺し損ねた残党ですから

5 とんでもない大手柄です

6 きっと、民の信頼を得るには十分な獲物でしょう

7

8 む…その顔——その部下から何も聞いてないんですね

9

10 う…も、申し訳ございません、団長

11 私、団長の功績の一助となれる喜びで

12 つい詳細の報告を忘れておりました…

13

14 //冒頭で「正面・中」へ移動

15 …ええ、その通りでございます

16

17 もう何年も前、私達がまだ子供の頃のことですが——

18

とある村が、このエルフ一族に襲撃される事件がございました

1 たまたま近くにいた前任の団長が
2 すぐ救助に向かったのですが――

3
4 その…騎士団が到着した時、既に村はほぼ全滅状態だったそう
5 だろうじて生きていた一人の男の子を逃がすことしか
6 できなかったそうです

7
8 代わりと言ってはなんです

9 襲撃してきたエルフ一族は

10 前任団長率いるチームが迎え討ち

11 討伐に成功したのですが――

12
13 //冒頭で「左斜め前・中」へ移動

14 ―一匹だけ、逃げられてしまったのです

15 結果、逃がした男の子も、逃したエルフも行方不明…

16 事件に幕が引かれることはないまま

17 時が過ぎるものだとばかり思われていましたが――

18

1 こうして今日、

2 ようやくその最後の一片を始末できるといいうけです

3 まさか、逃した獲物が

4 こんなに幼いエルフだったとは、私も意外でしたが…

5

6 ———はい？

7 襲撃の理由、ですか？

8 うーん…ことの発端は不明ですが

9 おそらくは、人類文明の機械化に反発したエルフが

10 一方的に村を襲ったのでしよう

11 …憎き害獣め

12 その賤しい面を見ているだけで、凄惨な現場が思い浮かぶ

13 同胞の最期の嘆きが聞こえてくるようだ

14

15 …そう、ですか

16

17 //独り言

18 …やっぱり帝国騎士団の皆さんは、頭が固いままなんですネ

1 私達は話し合いのために訪れたのに

2 耳を貸さず襲いかかってきたのは

3 人間達じゃないですか…

4

5 む、何か言ったか、お前

6

7 —いえ、何も

8

9 //余裕綽々で

10 フツ、抵抗する気も失ったか？

11 ならばせめて、天国へ行けるよう、神様にでも祈ることだな

12

13 //『神様』という言葉に、強烈な懐かしさを覚えて

14 ツ——神様、ですか

15 では、そうすることにします

16 カミサマなら、きっと——

17 私の夢も、未来へ繋いでくれるはずですから

18

1 団長、こいつの言葉に耳を貸してはいけません

2 同情を誘い、逃走や反撃の隙を狙っているのです

3 —これ以上の無駄話は、相手の術中に嵌りかねません

4

5 //栄誉を前に、気分を高めるように声を張る

6 さあ、団長！

7 栄誉は目前です！

8 この私めに、害獣の首を斬り落とす――

9 ――斬首のご指示を！

10

11 //なかなか指示が出ないことを不思議に思っ

12 …ん、団長？

13 どうされましたか？

14

15 //主人公の背中を押すように

16 む、立派な騎士団長様ともあろうお方が

17 何を躊躇っているんですか

18

1 私の考える騎士団長様は――

2

3 ――とっても強くて、

4 平和を守るためなら、自身の犠牲も厭わない――

5

6 ――そんな人ですよ

7

8 団長！ ご指示を！

9

10 //斬首の指示

11 ――っ！

12 はっ！

13

14 //決断を下した主人公を褒めるように

15 ――ふふ、立派ですよ

16 それでこそ――

17 明るい未来を切り開く、帝国騎士団長の姿です

18

1 …ですが――

2

3 では――参りますッ！

4

5 //優しく笑いながら、母性に溢れる感じで

6 ―泣き虫なのは、相変わらずですね

7

8 SE：斬首、反響

9

10 (間)

11

12 ■場所ーミキロスコ村から少し離れた森の奥

13

14 SE：森

15

16 //正面・中

17 しばらく森を歩いてきて、少しだけ息が上がっている

18 はあ、はあ――この辺りです

1 結構歩きましたが、大丈夫ですか？

2 ふふ、そうですか、良かったです

3 団長は体力のある方ではないですから

4 辛くなったらいつでも言ってくださいね

5 私、おんぶくらいなら余裕ですから！

6

7 //少しトーンを落として

8 …しかし、団長

9 ここまで来て言うことではないですが、やはり――

10 ――無駄足だったと、そうお考えなのではないですか？

11 いえ…文献を調べれば分かるものを

12 こうして現地まで足を運んで、その結果が――

13 ――まさか、こつも草木が生い茂っているばかりで

14 何もない場所だとは

15

16 きつと、当時逃げ延びた男の子も

17 森の中で倒れ、そのまま――

18 …そういうことなのかもしれません

1
2 —村のこと、ですか？

3 うーん…もう何年も前の出来事ですし

4 私も詳しくは、何とも――

5
6 SE：ガサッと草が擦れる

7
8 //音に警戒して

9 ——ッ！ 誰だッ！

10
11 //正面・遠

12 2行目で「正面・中」へと近付いて

13 お、お兄さん達、誰…？

14 モモナ、ママを探してて――

15
16 む、何だ、子供か

17 母親を探しているのか？

18 そうついことなら、私達と一緒に帝都に――

1

//正面・中 女騎士の言葉があんまり理解できていない

3 え、え、はう、あ——

4

5 //子供の耳が尖っていることに気づく

6 ——ッ！

7 団長！

8 こいつ、エルフです！

9

10 //いきなり大きな声を出したことに驚く

11 意味はわかっていない

12 はうっ！ え、え、な、何…？

13

14 捕獲します——

15 ——団長？

16 どうされたのですか？

17

18

SE：近づく

1

／＼行目で「正面・近」へ移動 移動後、吐息多め有聲囁き

3

え、え、あ、はう――

4

な、何、お兄さん…

5

／＼行目で「左斜め前・中」へ移動

7

――だ、団長！ 危険です！

8

未だに剣を振ることすらできない団長が

9

害獣に近づくなど――

10

／＼「この子、混血だよ」と言われて

12

――え？

13

混血？

14

あ――た、確かに、エルフにしては

15

耳の発達が不完全ですね

16

／＼主人公に体を触られてくすぐったそうに

18

へ、う――お耳ぶにぶに、なんで…

1 あう、そこ、お腹、さわさわるの、んう、ん…

2

3 //身体の発達が人間に近いことに気付く

4 …ん？

5 この筋肉のつき方、それに、この産毛——

6 これは——まさか、人間とエルフの——

7

8 SE：抱きしめる

9

10 //いきなり子供を抱きしめた主人公の行動に驚いて

11 だ、団長!?

12 一体何を——

13

14 //一行目で「右・耳元密着」へ移動

15 初めは驚くが、

16 その温もりがママ（＝ミミナ）にそっくりで安心する

17 は、へっ!?

18 ひ、へう、はう——

1 — あ、あれ？

2 あったかい…ママ、みたい…

3 う…んにゅ、ふう…

4

5 くら、お前

6 何を言っている

7 団長は君の母親では—

8

9 //団長を見たら泣いていた

10 おそろおそろ

11 早口にならないよう注意してください

12 — 団、長？

13 …泣いておられるのですか、団長…？

14

15 //この子は団長にとって何やら深い意味があるらしいと察して

16 ……

17 …いえ

18 私は、ここで待っていますから

1

…ええ

2

団長の、お気の済むまで

3

4

//自分を抱きしめたまま泣き出してしまった主人公に戸惑って、

5

何か言わなきゃとあせあせ

6

へ、う、えう…

7

え、えと、えつと…

8

う、う——

9

10

SE：風 cre→all off

11

12

//特に深い意味はなく、なんとなく頭に浮かんだ言葉を言っ

13

——パパ？

14

15

トラック5 終

16

17